令和 7 年 10 月 31 日

部 局 長 各 位

総 合 政 策 部 長

令和 8 年度予算編成方針について

標記について，小松市財務規則第 4 条の規定により，下記のとおり通知します。

記

1　国等の動向

日本の経済状況については，内閣府が発表した月例経済報告（令和 7 年 8 月）によれば，景気は，米国の通商政策等による影響が一部にみられるものの，緩やかに回復しており，先行きについては，雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるが，米国の通商政策の影響による景気の下振れリスクには留意が必要とされている。

また，6 月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針 2025」（骨太方針 2025）においては，令和 8 年度予算編成に向けた考え方として，物価上昇を上回る賃金上昇の普及・定着，官民連携による投資の拡大，少子化対策・こども政策の着実な実施など，重要政策課題に必要な予算措置を講ずることとしている。

今月発足した内閣では，令和 7 年度補正予算における経済対策をはじめ，国家安全保障の強化，補助金等の見直しなど，大きく動き出すことが予想されるため，最新の動向を注視し，情報の収集及び予算への反映に努めることとする。

2　財政見通しと課題

本市の財政見通しについては，歳出面において，高齢化に伴う社会保障費の伸びをはじめ，人事院勧告による人件費の上昇，物価高騰等に伴う歳出経費全般の増加など，行政コストの大幅な上昇が見込まれている。歳入面では，地価の上昇や企業による投資，賃金の上昇等に伴い，個人市民税や固定資産税等においては上昇が見込まれるものの，製造業における米国の関税措置等の影響により法人市民税の増加は見通せない状況にあることか

ら，行政コストの増大に対処することは困難な状況であり，厳しい予算編成になることを想定している。

一方，令和 8 年度においては，今後の市勢発展と市民生活の向上に向け，未来型図書館整備や市民病院改築に本格着手するほか，新産業団地造成とそれに伴う企業立地助成金，松陽中学校整備などに取り組む予定であり，これら大規模投資を計画どおり推進していくためには，歳入の確保と増え続ける歳出の構造改革が不可欠である。よって，既に突入している人口減少・少子高齢化がもたらす諸課題を十分に認識したうえで，各種政策や制度について不断に見直すことが必要であり，本市の持続的発展と行財政の持続性確保のため，今一度，熟慮と再考の徹底を是非お願いしたい。

3　予算編成の基本的な考え方

(1) 2040 年ビジョンの実現に向けた政策の立案・展開

○ビジョンに示す 2040 年の将来像を念頭に置き，バックキャスティング思考により中長期的な視点で政策の立案・展開を図ること。

○小松の未来を形づくるための重点的な取り組みを示した「Komatsu9 プロジェクト」や，ビジョン実現のため 5 年間で集中して取り組むべき政策を設定した総合戦略を十分に踏まえ予算要求すること。

(2) 都市の持続・成長を可能とする強固な財政基盤づくり

○ビジョン実現のためには，先送りされてきた諸課題や人口減少等に伴い顕在化する様々な問題から目を逸らすことなく対峙し，変化を厭わず挑戦し，改革に取り組むことが不可欠である。

○これからの行政は，市役所及び都市を経営していく感覚を持ち，経営資源を最大限に活用しながら，本質的な課題解決や財政健全化，都市の成長と市民幸福度の向上を図っていかなければならないことから，7 月に策定した「行政経営プラン」の方針を念頭に予算編成に取り組むこと。

各部局においては，この予算編成方針に沿って予算要求を行うこととする。